

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 仁摩福祉会	代表者	石橋 秀利	法人・事業所の 特徴	仁摩町は自然豊かな環境に、約15分程度の移動半径に行政機関、医療機関、商店、文化施設などがあるコンパクトシティです。仁万、宅野、大国、馬路の4地区それぞれに文化的個別性があります。 法人は「個人の尊厳を尊重」、「地域福祉の増進」を基本理念に介護サービス、保育サービス、障害サービスを運営しています。 事業所は通いを中心に、泊り、訪問を柔軟に組み合わせて一体的に提供する小規模多機能型サービスを提供しており、これまでの暮らしの継続性を常に念頭に、生き甲斐活動も含めた生活全般のサポートに努めると同時に、地域住民間の互助の橋渡しに努めています。
事業所名	小規模多機能型 居宅介護事業所 ほほえみ	管理者	森山 まゆみ		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	3人	(文書により参加)1人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	① 小規模計画見直し会議時に、担当利用者が介護職員の情報を事前に集約して情報発信を行う	① 担当利用者の情報はあっても集約することが出来ず、小規模多機能計画を立案する介護支援専門員が担当者から情報集約を行う形となった。	前回の改善計画に対しての取り組みは計画通りに出来ていなかったが、情報の共有に努力されていることが確認できました。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や本人からの支援の要望については、アセスメントを通して本当に必要な支援、ご本人の出来る出来ないを把握し、計画書に落としとしていくように、職員全員でその目を持って対応する。 ・利用者の目標を忘れがちになる為、目標シートを作成し意識しながら対応する。 ・毎月のミーティングでは職員からの意見を聞く時間を設け、チーム力を向上させる ・施設内研修で制度について職員が学ぶ機会を設ける。
	② より住んでいる地域への参加を支援するために、仁万、宅野、馬路、大国を中心に地域で行われている行事について情報収集、掲示物を作成し、地域活動について学ぶ機会を設ける。	② 新型コロナウイルス感染症予防の為、ほとんどの地域行事が中止となった。	コロナがなければ、されていたと思いますが残念です。	
	③ 民生委員、地域住民を招いて地域活動について学ぶ機会を設ける。	③ 新型コロナウイルス感染症予防の為、外部の方の施設への立ち入りを禁止していた機関が長くなり、開催することができなかった。	今年は民生委員も活動が出来ていません。あまり訪問も出来ず電話で確認している。これもそうだと思います。	
	④ 利用者担当職員の見解を支援に反映できるよう、毎月開催しているケア検討のための事業所ミーティングで必ず発言時間を設ける。	④ 担当職員が参加出来た場合には発言の機会を設けましたが、担当外の職員からも活発な意見が聞かされた。	わかりました。	

	⑤ 「ほほえみ祭り」を開催し、地域の方との交流機会をとす る。	⑤ 新型コロナウイルス感染症予防の為、地域の方との交流はできなかった。	なかなか行事が出来ないと思います。	
	⑥ 介護職員による実地指導チェックリスト等を用いた事業所点検を行います。	⑥ 法人内監査（内部監査）があり、管理者、リーダーの3人でしか行うことが出来なかった。	わかりました。	
	⑦ 認知症介護について、介護実践に資する事業所内研修を開催する。	⑦ 事業所ミーティングの中で職員研修を行った。	わかりました。	
	⑧職員、利用者の家族等と一緒に学ぶ権利擁護ミニ講座を開催する。	⑧ 新型コロナウイルス感染症予防の為、利用者家族を事業所にお呼びすることができなかった。	なかなかコロナ禍の中、難しいと思います。	
B. 事業所の しつらえ・環境	感染症への具体的対応力を高めるための感染症対応マニュアルの見直しを行う。	感染症が発生しても事業が継続出来るよう、業務継続計画を策定した。これは今後も見直しを常に行い、完成させていきます。	わかりました。 しつらえの部分では、掃除も出来ていて、整理整頓できている印象があります。明るい印象があります。	感染症については情報を把握し、サービス内容を検討し、利用者の満足度を維持・向上させる 毎月のミーティングでスピーチロックについて確認し、日々の業務で常に意識してケアを行うようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	自治会等による事業所近隣の災害時要配慮者の情報把握、避難体制作りに協力する。	自治会での自治防災の動きがないようで、協力にまでは至らなかった。	わかりました。 職員の挨拶の部分では、いつも送迎時には気持ちのこもった挨拶をして頂いています。いつも頼りにさせて頂いています。	利用者のアセスメントシートに職員全員が気づきや情報・地域資源などを記入していく 民生委員の方や利用者の生活を支援して下さる方との連携を続ける。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者による地域美化活動等の定期的な実施を支援する。	新型コロナウイルス感染症予防の為、利用中の外出がほぼ出来ませんでしたでしたが、流行が落ち着いた頃に一度、仁摩健康公園駐車場のゴミ拾いを利用者で行うことが出来た。	コロナ禍のため、外出がほぼ出来ず、実施は難しかったと思いますが、様子を見ながら行われ、少しずつでも目標達成できればと思います。 大国の文化祭にも2名の方が地元で参加され、喜ばれたとのことでしたね。そんな機会が増えれば	利用者と道の駅「ごいせ仁摩」に出向き、地域の方と交流するとともに季節の物を購入し、昼食作りを行う。 地域の催し物には感染症の状況を見ながら、参加への協力を行う。

			良いです。	
E. 運営推進会議を活かした取組み	家族、知見者、市職員に加え、不定期での大田市介護相談員、地区民生委員会長、駐在所員（警察官）、消防署員に出席依頼し、より広い範囲での意見収集を図るとともに、連携力を高める。	新型コロナウイルス感染症予防の為、事業所にお呼びすることが出来なかったが、仁摩駐在所の署員2名の方と意見交換、情報共有の場に参加することが出来た。	それはいいことでした。続けて行ってほしいです。	運営推進委員の方へほほえみの活動が伝わりやすいように資料や報告を工夫する。委員会開催時にはほほえみの様子を案内、見学していただく
F. 事業所の防災・災害対策	防災訓練への地域住民参加を要請する。	火災訓練を行った際に、近隣の住民の方に参加して頂くことが出来た。	それは良かったです。来年は近隣の施設と日が合えばいいと思います。	火災訓練に加え、防災訓練でも地域の方に協力をお願いします。